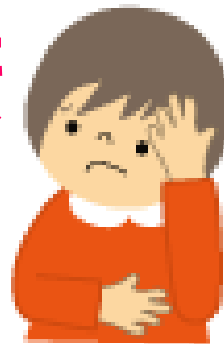


事故のリスクが高い場面を把握し、発生予防に取り組むこと



- 事故が発生しやすい場面(睡眠中、水遊び、食事中等)を全職員が認識し、保育の見直しや、ヒヤリハットなど事故発生予防に取り組みましょう
- 死亡事故が多いのは、預け始めの時期です。子どもの状況を十分に把握できるよう、保護者と丁寧にやりとりを行い、記録などを通して情報共有を行いましょう
- 死亡事故が多いのは、0・1歳児です。個々の子どもの状況をよく把握し、応答的な関わりをすることが重要であることを認識して日々の保育を行いましょう

登園時の子ども の健康状態等の把握



- 体調不良と思われる子どもについては、保護者からの情報を記録に残す、または保護者に連絡帳等に記録してもらうことにより、健康状態を把握するようにしましょう
- 預け始めの時期は、子どもにとって精神的負担が大きく、身体にも影響を及ぼします
 - 子どもの状況を注意深く把握しましょう
 - 子どもが徐々に環境に慣れるにはどうしたら良いかを保護者と共に考え、家庭との連携・協力を密にしましょう

子どもの安全を最優先とする 意識の徹底とガイドラインの 更なる周知徹底



- 後片付けやお迎え対応などの短時間や、役割分担が曖昧で子どもを観察していない時間に、重大事故が発生しています。子どもの安全を最優先とする意識を徹底させましょう
- ガイドラインの内容について、全ての職員がよく理解しましょう
- 運営体制の見直し、マネジメント力向上など、事故の発生予防に向けた組織的な取組みが重要です

事故発生状況の記録の 重要性の周知徹底



- 記憶が薄れたり、他者の意見に影響されたりしないよう、事故発生状況はその日のうちに、できる限り早く記録しましょう
- 事故が発生しやすい場面(睡眠中、水遊び、食事中等)には、ビデオ等の機器を活用しての記録も有効です